

この写真は著作権の関係で表示できません。

写真は冊子でご覧になることができます。

担当営業までお問い合わせください。

元肥に役立つIT



中部大学 理事・副学長
YKK株式会社 取締役

小野 桂之介氏
おの けいのすけ

肥料には有機肥料と化成肥料の2種類があり、農作物の育成には両方をうまく組み合わせる必要がある。鶏糞、牛糞、油粕など有機肥料の効き目は、じわじわとだが長い間持続し、地力を高める。一方、化成肥料は、即効性はあるが短い間しか効き目が持続しない。そこで、野菜作りでは、よく発酵した有機肥料を元肥に施し、化成肥料は主として追肥に使う。元肥をしっかり入れておくと、トマトでも茄子でもかぼちゃでも味の良い大きな実が沢山収穫できる。柿、栗、桃といった果樹も同じことのように、丈夫な樹を育て良い実を沢山収穫するため、発酵した有機肥料を根の周辺に定期的に施すという。

このことは人間の成長にも当てはまりそうである。情報機器の使い方や経済・産業動向に関する知識は必要だが、そうしたいわば化成肥料的な知識だけでは、一個の人間としても職業人としても大きな成長は望めない。年と共に成長し、優れた仕事を積み上げてゆくためには、様々な問題領域に関するフレームワークや自分独自の価値観、感受性といった「基本的な物の考え方と感じ

方」をしっかり身につけ、それを持続的に再開発してゆく必要がある。人生における有機肥料の獲得と補給である。

ITの目覚ましい進歩は、我々の日常生活や仕事のやり方を一変し、その変革はいまも猛スピードで進行している。情報の収集と加工、関係者との連絡や相談など様々なことが、夢のようなスピードと容易さで行えるようになった。ひとつ気にかかるのは、そうした変革の大半が、元肥的なことではなく追肥的なことで占められていることである。

もちろん、それはITの責任ではなく、ITを使う我々一人ひとりの問題ではある。しかし、このまま成り行きに任せておくと、ITの凄まじい進歩に流され、追肥型人間ばかりが増え、化成肥料漬の土地のような味気ない社会に突っ走ってしまうような気がしてならない。進歩し続けるITとの適切な付き合い方、人間の元肥の成長に役立つITの活用、それに適したITの開発などについて、我々利用者ばかりでなく、専門家の工夫と努力も求められていると思う、今日この頃である。